

東京都写真美術館年報

2006 - 2007

TOKYO
METROPOLITAN
MUSEUM
OF
PHOTOGRAPHY

東京都写真美術館年報／2006-07

Annual Report: Tokyo Metropolitan Museum of Photography
2006-07

はじめに

東京都写真美術館は、多彩な10周年事業を展開した平成17年度の成果を継承しながら、平成18年度は「判りやすく説明する美術館」を目標に、新たな第一歩を踏み出しました。

特に、すぐれた写真・映像作品や作家との出会いを求める人々の声に応えるという美術館の使命を果たすため、写真美術館では平成18年度も年間20以上の展覧会を企画、実施しました。

年度当初は、ギイ・ブルダン、デスティニー・ディーコン、マイケル・ケナナと三人の海外作家の展覧会を開催しました。

また、異色の展覧会として、館長以下の全ての専門スタッフが自ら作品を選定した「キュレーターズ・チョイス」展を開催しました。

夏には「中村征夫写真展 海中2万7000時間の旅」を開催し、当館に豊富な海中の世界を出現させました。

「石内都：mother's」展は第51回ヴェネツィア・ビエンナーレ日本館での展示を記念し、新作を加えた完成版です。さらに、重点収集作家個展として「球体写真二元論 細江英公の世界」展、5回目となる新進作家展として「地球の旅人—新たなネイチャー・フォトの挑戦」展を開催するなど、来館者の皆様に、深い感動と写真・映像作品とふれ合う機会を提供してきました。

これらの展覧会を支えている、作家や学芸員によるフロア・レクチャー、カフェ&アーティスト・トークも定着し、より深く作品や作家に対する理解をいただけたものと考えております。

1階ホール「実験劇場」でのロードショー上映も回を重ね、「アダン」では孤高の画家田中一村を描き、「ニキフォル 知られざる孤高の天才画家」はポーランドの画家をとりあげ、美術館ならではの映画上映として好評を博しました。

平成18年度は、教育普及活動にとっても重要な年となりました。写真・映像をより深く知るためのワークショップ、ボランティア活動との連携など、写真・映像の裾野を広げ、写真美術館がそのセンター的機能を果たすための事業を強化してきました。

さらに、図書室ではウェブ上で、東京国立近代美術館、国立西洋美術館、東京都現代美術館、横浜美術館の蔵書の横断的な検索が可能となり、利用者の利便性の向上に努めています。

なお、開館以来の当館の写真界への貢献が評価され、第33回日本写真家協会賞を受賞したことを感謝の念をもって報告させていただきます。

引き続き、写真美術館では多様な展覧会を核として、写真・映像文化の振興に努めるため、努力を積み重ねてまいります。

本書が皆様にとって当館を知るための参考になれば幸いです。

東京都写真美術館

目次

平成18年度事業

東京都写真美術館の基本的性格	5
東京都写真美術館のミッションとその実現に向けて	6
展覧会事業	8
実験劇場	20
作品資料収集／作品収集実績	24
平成18年度収蔵作品の紹介	26
調査研究	32
保存科学研究室	34
図書室	36
普及事業	38
ミュージアムショップ／カフェ	49
維持会員	50
数字からみた写真美術館	54
条例	59
施行規則	62
開館の経緯／組織図	64
平面図／施設面積／建物概要／設備概要	65
利用案内	67



東京都写真美術館の基本的性格

東京都写真美術館は、我が国初の写真の総合的専門美術館です。中心となる「写真美術館」に、映像分野全般について、文化と技術の両面から総合的にとらえ体験できる「映像工夫館」を付設した、多くの都民にとって親しみやすく、また多様な関心に応えることが可能な新しい文化施設です。そしてこの美術館は、次のような基本的性格を持っています。

- a 写真の総合的専門美術館として、収集、展示、保存、修復、調査、研究、普及などを含めた総合的な活動を行います。
- b 写真表現の可能性に挑戦する創造的精神を支援し、将来性のある作家を発掘し、新しい創造活動の展開の場とします。
- c 写真芸術・文化を普及するために、人々が気軽にすぐれた写真作品を鑑賞し、学ぶとともに、美術館の諸機能を積極的に享受できるような、開かれた施設とします。
- d 写真に関するあらゆる情報を集約するとともに写真を含む映像全般に関する調査・研究を行う施設とします。
- e 日本における写真文化のセンター的役割を果たすとともに、国際的な交流の拠点となることを目指します。
- f ワークショップなど参加型機能をもつとともに、人々の創作活動をサポートする施設として、国内外の写真作家や人々が広く交流しうる場を備えた施設とします。
- g 歴史的な映像文化に関する展示と最先端の映像表現を体験的に享受できる「映像工夫館」を併設し、映像メディアの発達の歴史を学ぶとともに多様な表現の可能性を探ります。

(平成3年8月東京都策定「東京都写真美術館基本計画」より)

*なお「映像工夫館」は現在「映像展示室」として「映像展」をはじめ各種展覧会を開催している。